

たなべ典礼ファミリーホール

智の会通信

2010
初冬号
vol.45

発行

総合葬祭
たなべ典礼

代表取締役 田辺紀夫
栃木県佐野市大祝町2391
電話：0283-22-1507
fax：0283-22-1590



喫茶店で友達を集めてお別れ会をしている。

発行が遅れまして、もう冬の始まりになってしまいました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

最近ではよりいっそう葬送に関心が高くなり、テレビや新聞などでもお葬式の話が毎日のように取り上げられています。

なかでも「家族葬」という言葉はすっかり世の中に浸透して、あわせて多くの人は、その言葉のイメージを「家族葬とは内々で簡素なお葬式」、また「家族・近親者だけで行うもの」というように認識されているのではないのでしょうか。日本葬祭アカデミーでも、消費生活センターなど行政主催の葬祭セミナーでは「家族葬」をテーマにしたものが定番。参加者の多くは「子供たちに負担をかけないように」と考えて、それが

家族葬でいいの？ 現われはじめた「家族葬」の問題点

参加動機になっている人も多いようです。

けれども、最近その「家族葬」を考えている方や既に行った方々のご意見から、新たな問題点も出てきました。共通して聞かれるのが、訃報連絡の範囲です。つまりどこまで連絡したら良いのか？ 中には「近親者のみ」と言うことで、訃報さえ出さないケースもあります。そのことで親しい友人や近隣、あるいは遠くの親戚から、「なぜ、知らせてくれなかったか！」と悔やまれその後、やるかたのない気持ちの人が続出しています。また葬儀終了後も不定期な弔問が絶えなかった、故人の長年の友人からきつくお叱りを受けた等々、遺族との関係が気まずくなって、今になって悩んでいる人も。

「近親者のみで！」と言うことは、故人と地域社会との関係において、身近な血縁者以外の弔問を一方的に固辞しているわけで、これはきわめて「思いついた」態度かもしれません。

人は社会的なつながりの中で生きています

私たちは「社会」のなかで生活しています。社会での人間関係は、当然家族や親戚だけではなく、むしろそれ以外の人たちとの関係がたいへん深いものです。



新しい対人的・社会的対応としてのホテル葬。遺族近親者のみで「葬儀」を行った後、日を改めて「偲ぶ会」を開催している様子。

「遠くの親戚より近くの他人」とも言います。その関係を「お互い様」として、世代を通じて地域社会で受け継いできました。これを無視してしまうことは、社会的なマナー違反だと思えますが、いかがでしょうか？

家族葬という言葉は、「耳障り」がい言葉ですね。けれども「安葬式」「簡略な葬式」の置き換えと勘違いしている人もいます。安い、高いは価値観の問題。あわせて「簡素」と「粗雑」はまったく別物です。遺族の多くは、「できる限りのことをしてあげたい」という思いと同時に、社会的な配慮を考えねばなりません。それは都市部では希薄になったかもしれないですが、地元とのコミュニケーションがあるからです。これこそがお葬式を行う意義、葬送の原風景ではないでしょうか。

家族葬の問題点も、もとはといえばマスコミの影響もあるでしょう。故人の遺志を尊重することと、そのことで遺族が周りの方々に無配慮であることは別次元の問題です。世代間でそこを冷静に考えておかねばなりません。そのため工夫や知恵もありません。是非そのあたりから、事前相談やご本人も生前の相談をしておきましょう。

お知らせ！

「二村氏が選んだ日本の葬儀社」
として、当社が選ばれました！

週刊朝日別冊号
『夫婦で考える定年後の暮らしとお金2011年版』が来月発売されます。(予定価格680円)その中で掲載されています。「老後の10大リスク」としてお葬式の記事は大好評。各地の行政セミナーでは資料配布されています。是非、書店でお買い求めください。今年の週刊ダイヤモンド・臨時別冊「葬儀・寺・墓・相続」大事典誌上、「安心できる葬儀社」に引き続いての推薦です。

12月発売

夫婦で考える
**定年後の
お金と暮らし**
2010

週刊朝日
別冊号

完全保存版
老後の不安解消マガジン

これは2010年版

- ①退職金・ローリスク資産運用
- ②年金と保険を基礎から徹底解説！
- ③老後10大リスク。葬式、墓、終老準備...
- ④定年後の住まい大研究

大前研一
小宮一俊
荒木由美子

事前のご相談がなによりの安心

ファミリーホールのたなべ典礼 電話 0283-22-1507

●年中無休／24時間受付●

洗骨(せんこつ)

先月号で与論島の埋葬を紹介した。そこであらためてこの洗骨の風習を考えてみたい。

人は骨にならないと、死んだことにならない。肉体が朽ち果てていく過程では、それはまだ死として「完成」されていないという考え方がある。死に至る期間が短縮され、現在の「通夜」、お線香やお灯明を絶やさずに夜通しする風習になったともいわれる。もちろん昔から火葬はなされていたものの、その最初は仏教の高僧であり、その後は天皇などの階層でなされて、庶民は主に遺体の遺棄葬、いわば「野ざらし」であった。とくに先祖供養意識の高い南西諸島では風葬という手立てで、白骨化を促していたようである。波に洗われる海岸近くの洞窟に遺体を安置したり木から吊るすような風習まである。この背景にはこの世の「殻」である肉体を打ち捨てて、いち早く骨になることに死の確定が意識されていたのではないか。

与論島においても埋葬した祖母の遺体を3・4年後に洗骨のために掘り起こす際、遺族が一番心配したことは、きれいな骨になっているかどうかで、肉体の一部などが残っているとまだこの世に未練があるものとして心配するという。夜明け前に汲みあげた海水で遺骨

をきれいに洗い清め、世代承継の中でその責任が果たされていく。

ここには亡き親に対する感謝と同時に、今度は自分自身が次の世代に同じような伝統の中で先祖として祀り上げられていく予感と安心感を得ていくわけである。その証として、与論島の人たちは、自分の本名のほかに「ヤーナ」という先祖から代々受け継いできた名前を誰もが持っている。これは主に祖父祖母の「ヤーナ」を孫が受け継ぐことから見ても、その供養承継を三世代の時間の中で意識しているとみることができる。この感性を手厚さとして、現代供養の中でぜひ意識してもらいたいものだ。



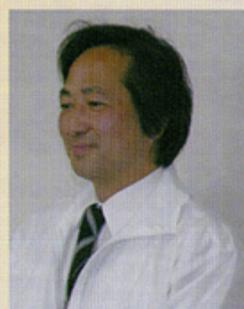
美しいさんご礁の島与論。多くのお墓は海岸に沿ってある。

ワンポイント お葬式実務12 相続する人がどこにいないかわからないケース。分割協議は？

最近では孤独死など、まるで身寄りが全くないような逝去をされる事例が多く聞かれます。けれども基本的にその遺産は一人でも相続人がいる場合、これを第三者が勝手にはできません。まして相続人が複数の場合は「全員」で分割協議を行わなければなりません。こういうケースではその相続人が不明なこともあり、その場合は他の相続人が家庭裁判所に「不在者財産管理人の選任」を請求し、その管理人に不明者の代理人になってもらって分割協議を行うこととなります。やはり生前の対応ができていないと遺された人にはいろいろな問題を残すこととなります。行政書士など有資格者に、とりあえず「公正証書」などの「下書き」アドバイスを相談しておくのもいいかもしれません。

のらびのひと言

急に秋めいてきて、冬の訪れもすぐそこまで来ています。いっぺんに寒さを感じるようになりまし。みなさんいかがお過ごしでしょうか。



けれども佐野ではどうでしょうか？中にはそのようなケースもありますが、やはり地元とのつながりは大切なものとして、お葬式の規模にかかわらず多くの方がお葬式に参集されています。

私は義理と云う言葉が形だけとか無意味なものとは思いません。世代を超えて心のつながりを保つための、社会的な接着剤？ではないかと感じています。ご葬儀はご家族だけの問題ではなく地域社会での人間関係の上で成り立っているように思います。当社では、地域を中心とした地場産業としての葬儀社、と云う認識のもとに業務に勤しんでいます。今回週刊朝日別冊号2011年版にて記載紹介された葬儀社各社に言える共通して言えることは、何よりも地元を大切にしていることだと思えます。是非、事前相談などお気軽にご相談ください。

最新の葬費用統計(2010年・月刊消費者)をみると、全体的には199万円くらいが、全国平均。二年前は231万円でした。何が一番減ったのかといいますと、お葬式の小規模化で、特に会葬者の数が減ったと云うことです。



ファミリーホールのたなべ典礼

●年中無休/24時間受付 ●事前のご相談がなによりの安心。

駐車場拡大しました!

電話 **0283-22-1507**

お申込みは、いつでも受け付けます
入会金・年会費無料